



今回は、2年2組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 1 班はわかかさプラザを訪問しました

研究テーマ: アレックス・レモネードスタンド

日 時: 2019 年 11 月 10 日(日) 10:00 ~ 15:00

訪問先: わかかさプラザ

参加者: 加納彩美 北川佳奈 堀佑斗 堀部恒汰 間宮三紗乃 三宅花 武藤愛奈

◇ フィールドワークを通して学んだこと、感想



私たちは、小児がんの子供たちを救うために、環境フェアせき 2019 でアレックス・レモネードスタンドを開きました。そこで、お店に来た人にアンケートを取りました。分かったことは、アレックス・レモネードスタンドの活動が少しずつ広まっているということです。昨年の先輩方の活動で知った人、テレビで知った人、家族から聞いた人など、様々な方法で活動が広まっています。小児がんの子供たちを助けるために

募金できる機会は少ないと思うので、後輩にも活動を続けて欲しいし、家族に話すなどして身近なところから広めていくことが必要だと思いました。



◇ 私たち 2 班は小森産業株式会社を訪問しました

研究テーマ: 発展途上国の子供が幼少時に亡くなってしまう問題について先進国にいる私たちには、何ができるのか。

日 時: 2019 年 8 月 14 日(月) 9:00 ~ 10:00

訪問先: 小森産業株式会社

参加者: 稲熊瑛一郎 打田愛子 金本心友 波多野美友 福田巴菜 安田春架 横地宏典

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



キャップからできたプラスチック製品を売った資金でワクチンを買うことができる。ただ、ここ近年キャップ回収量が減少している。その理由はキャップ回収への意識が薄れていることがあげられる。キャップ回収を行っている業者も減っている。現状としてキャップ回収の活動は知名度が低い。このキャップ回収の活動を知ってもらい、多くの人にこの活動に参加して

してもらい、多くの人にこの活動に参加してもらうことが大切である。キャップでも世界の子供を救うことができる事を主張していきたい。「世界を救う鍵は “キャップ” にある。」と。

<http://www.japanprint.co.jp/introduction/eco.html>





今回は、2 年 2 組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 3 班は愛知東邦大学を訪問しました

研究テーマ： 貧困をなくそう

日 時： 2019 年 8 月 1 日(木) 13:00 ~ 15:00

訪問先： 愛知東邦大学

参加者： 足立ひなた 井上洸貴 川島優汰 後藤聖弥 鈴木蓮 永田晃大 森美由紀

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちの班ではフィリピンでストリートチルドレンへのボランティア活動を経験された山本怜子さんに話を聞きました。とてもインターネットや本だけではわからないようなストリートチルドレンの現状を知ることができ、この問題について考えを深めることができました。

玲子さんの話の中にストリートチルドレン出身の親の子はストリートチルドレンになってしまうというものがあり、それが一番心に残りました。

それはこの問題を連鎖させ、複雑なものにするのです。経営学部を専攻している玲子さんは「子供たちがもっとお金を稼ぐノウハウについて知識があれば自分たちで仕事をしてお金を稼ぐことができる」と教育の大切さについて唱えました。

しかしフィリピンではあまり対策は行われておらず、この問題は国だけでは解決できないものとなっています。だからこそ我々個人がこの問題について興味を持ち、自分に何ができるのかを考える必要があるのです。あなたは どうしますか？



◇ 私たち 4 班は 学生国際協力団体 SIVIO 東海支部 を訪問しました

研究テーマ： ラオスの教育

日 時： 2019 年 8 月 4 日(日) 13:00 ~ 16:00

訪問先： 学生国際協力団体 SIVIO 東海支部

参加者： 山下和真 足立千景 林虎鉄 津谷将也 宇野紗理夏 長谷川加苗

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



世界には様々な理由から、教育を受けたくても受けられない子供たちがたくさんいることがわかった。この問題をラオスだけの問題として捉えず、同じ地球に住む一人の人間として、一人ひとりが自分にできることを考えて、募金をしたり、ボランティア活動に参加したりして、みんなでこの問題に関わっていくことが大切だと考える。私たち一人ひとりの協力が、子供の笑顔につながるだろう。





今回は、2 年 2 組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 5 班はセブンイレブン・ローソンを訪問しました

研究テーマ：日本の食糧難民と食品ロス

日 時：2019 年 8 月 6・7 日(火・水) 13:00 ~ 13:30

訪問先：ローソン関口駅店・セブンイレブン関市東新町店

参加者：佐藤遥花 田原秀英 仲西舞 西彩乃 平野優芽

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



最初にセブンイレブンを訪問しました。あまり産業廃棄物がでないけれど、家庭内のごみが捨てられてごみが増えることがあるそうです。その問題を解決するために、セブンイレブンではポスターで呼びかけを行っていました。

ローソンでは、まだ本格的な対策を行っていませんでしたが、関口駅近くのローソンでは、店で作ったものを値引きして少しでも売れるようにしていました。また、1日に4回冷蔵商品棚の温度

をチェックして、品質を保っていました。

これらの訪問で私たちは、日本では個々では対策を行っているけれど、まだしっかりとした対策がないことがわかりました。そして、この問題を解決するために現状を日本に発信しようと思いました。



◇ 私たち 6 班はダイバーシティ SEKI シンポジウムに参加しました

研究テーマ：LGBT

日 時：2019 年 6 月 30 日(日) 10:00 ~ 16:00

訪問先：関わかくさプラザ

参加者：池田暖 太田凜音 佐藤稜和 鳥澤美友 那須円香 藤本真優華 八巻航

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちは、不当な差別にさらされている LGBT の方々が社会の中で自分を隠すことなく暮らせるように多くの方に LGBT について知ってもらおうと考えました。

当事者の方から直接話を聞く中で、親世代や祖父母世代の方たちの LGBT に関する認知度が低いため自分をさらけ出せない状況にあることがわかりました。そこで、チラシを作り、配布することに決めました。

LGBT であるというだけで、当然得られるべき権利を得られていないのが現状です。このような状況は改善されるべきです。

